

令和3年11月17日
(2021年)

保護者のみなさまへ

吹田市立東佐井寺小学校
校長 内田 祐子

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

全国値を下回る

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

- ・「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」「資料を用いた目的を理解する」「目的や意図に応じ、資料を使って話す」ことは、概ねできています。

書くこと

- ・「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える」ことは、やや課題があります。
- ・「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことは、課題があります。

読むこと

- ・「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける」ことは概ねできています。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

・「漢字を正しく使う」ことは、同音異義語のある漢字に課題があります。また、「主語と述語の関係
を捉える」「修飾と被就職の関係を捉える」ことについても、課題があります。

●国語科における成果と今後の改善点について

話すこと・聞くことでは、本校の昨年度の研究テーマ「子どもの主体的な学びを引き出す発問
の研究」において、「安心して話し合う学習集団作り」という点に焦点化したことで、相手意識を
持ったり、資料を用いたりしてコミュニケーションをとる中で自分の考えを表現する力が育ってき
ていることが伺えます。

書くことでは、二段階以上の思考を必要とする条件作文問題への苦手意識が見られました。
難しい問題でも自分でじっくりと考える姿を目指し学習に取り組んでいきます。

漢字については、同音異義語のように選択肢が複数ある漢字の中から適切な漢字を選んで
書くことや、熟語として漢字を的確に使用することに課題が見られます。漢字を機械的に覚え
るだけでなく、成り立ちや意味、場面による使い分けなどを日常的に意識して学習していけ
るよう取り組んでいきます。また、授業中等で主語と述語、修飾と被修飾の文法的な事柄を取
り上げる機会を増やすよう取り組んでいきます。

●算数《概要》

全国値とほぼ同じ

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

・「商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係をとらえて除法の
式に表し計算すること、「倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適応したときにつ
いて理由を記述すること」に課題が見られます。

量と測定

・概ねできていますが、「必要な数値を選び、その求め方と答えを記述すること」に課題が見られ
ます。

図形

・「複数の図形を組み合わせた図形の面積を比べる」ことにやや課題が残ります。

数量関係

・概ねできていますが、「速さと道のりを基に時間を求める式に表す」ことにやや課題が残ります。

●算数科における成果と今後の改善点について

記述式の回答で、無回答率の増加傾向が見られました。立式し、答えを出すことはできます
が、「なぜこの式にしたのか」ということについて算数用語を使って説明したり、場面から数値を
取り出し活用したりする経験が不足していることも見受けられます。

本校では、今年度のテーマを「子どもの主体的な学びを支える授業づくり」と掲げ、特に一人1台端末を活用して」教材研究会や研究授業等の研修を重ねております。また、少人数指導者を中心として、自らの考えを図や数直線・式を使って表現したり、互いに共有し、深め合う活動を取り入れています。今後国語科の学習とも連携し、必要な情報を選び出す機会を設けることにより、読解力の定着を図ってまいります。さらに計算の正答率が向上することにより苦手意識をなくしていけるよう、引き続き授業改善に取り組んでまいります。

●英語 ※質問紙調査のみ

- ・「英語の勉強が好き」な児童は全国値をやや下回っています。
- ・「英語の授業で、英語で自分自身の考えや気持ちを伝えあうことができている」と答えた児童は、全国値をやや下回っています。
- ・「英語の授業以外で英語を使う機会があった」と回答した児童は、全国値を上回っています。

●新型コロナウイルス感染症が児童に与えた影響について

- ・「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強に不安を感じた」児童は、全国値を下回っています。
- ・「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた」児童は、全国値をやや下回っています。
- ・「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた」児童は、全国値を下回っています。
- ・全国の傾向と同じく、「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき」は、家族に聞いた児童が最も多く、次いで友だちに聞いたという児童が多くみられます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童は、全国値を下回っています。
- ・「普段、1日当たりどのくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、スマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか」という項目では、4時間以上と回答した児童が全国値を上回っています。
- ・全国の傾向と同じく「人の役に立つ人間になりたいと思う」児童が多くみられます。
- ・「学校に行くのは楽しい」と思っている児童が全国値をやや下回っています。
- ・「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」こと、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」児童に関しては、全国値を上回っています。
- ・「学校の授業時間以外に、全く勉強をしない」児童は、全国値を上回っています。

【教科・学習について】

- ・「国語の勉強は好きですか」「算数の勉強は好きですか」の項目では、全国値を下回っています。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか」と「算数の授業の内容はよく分かりますか」の項目で「当てはまる」と答えた児童は、全国値を下回っています。このことから、教科の魅力を分かりやすい授業を通して伝える必要があると考えられます。
- ・「算数の授業で公式やきまりを習う時、そのわけを理解するようにしていますか」という項目では全国値を下回り、簡単な問題では公式を当てはめて使うことはできますが、複雑な問題になると公式を使うことが難しくなることがうかがえます。
- ・「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」との項目では、全国値を上回っています。
- ・「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」の項目では「最後まで解答を書こうと努力した」児童が全国値をやや上回っており、算数での児童の主体的な取り組みを進めている成果がうかがえます。

3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、本校は、学習内容について生活体験との結びつきを意識できるような授業づくりを行い、国語や算数など各教科の持つ有用性を実感し、主体的に学習に取り組めるような授業をさらに進めてまいります。

また、自分の考えを書く機会を大切にし、発問や学習内容に対して自分なりの考えを持ち、相手に伝わるように、自分の言葉で書けるような場面を積極的に作っていきます。

生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、児童が主体的に取り組める「自主学习」の機会を一人1台端末を活用しながらさらに進め、児童が自分で決めた目標に向かって主体的に学ぶ姿勢を育成していきます。

子どもたちの成長は、教科学習における知識の獲得だけではなく、学習に向かう意欲や姿勢、生活習慣・生活体験により興味・関心を広げていくことなども大切です。ご家庭におきましても、今一度生活リズムを見直してもらえたらと思います。また、テレビゲーム・スマートフォン等の使い方や使用時間についても、ご家庭でも一緒に考えてみて下さい。学校では、デジタルシチズンシップ教育に基づく適切で責任のある行動をとるための「立ち止まって考える力」を育むための教育の実践を重ねてまいります。児童の自立と幅広い学習の機会をつくるため、ご協力をお願いいたします。